



最上校図書委員会 No.17 1月21

第164回 芥川賞・直木賞 決定！

1月20日、東京・築地「新喜楽」において、選考会が開かれた。両賞は1935年に制定。芥川賞は新聞・雑誌に発表された純文学短編作品、無名・新進作家が対象。直木賞は新聞・雑誌・単行本として発表された短編および長編の大衆文芸作品の中から、無名・新進・中堅作家が対象となり、優れた作品に贈られる。芥川賞候補には、



宇佐見りん『推し、燃ゆ』（文藝秋季号）
尾崎世界観『母影（おもかげ）』（新潮十二月号）
木崎みつ子『コンジュジ』（すばる十一月号）
砂川文次『小隊』（文学界九月号）
乗代雄介『旅する練習』（群像十二月号）

以上の5作品の中から、宇佐美りんさんの作品に決定した。

芥川賞受賞作「推し、燃ゆ」 宇佐美りん著

学校生活も学校関係も上手いかない日々を送る、高校生のあかり。そんな彼女にとって唯一の生きがいは、推しのアイドル上野真幸を解釈することだった。ある日、推しがファンを殴って炎上したというニュースが飛び込んできて？

直木賞候補には、芦沢央『汚れた手をそこで拭かない』（文藝春秋）

伊与原新『八月の銀の雪』（新潮社） ・ 加藤シゲアキ『オルタネート』（新潮社）

西條奈加『心淋し川』（集英社） ・ 坂上泉『インビジブル』（文藝春秋）

長浦京『アンダードッグス』（KADOKAWA）

以上6作品の中から、西條奈加さんの作品に決定した。

直木賞受賞作「心淋（うらさび）し川」 西條奈加著

江戸の片隅、小さなどぶ川沿いに建ち並ぶ長屋。

住人たちは人生という川のどん詰まりでもがいていた。

懸命に生を紡ぐ人々の切なる願いが胸に沁みる感動連作！



かるた大会結果発表

犬棒かるた（ことわざ）と日本昔話かるた（あらすじ）を取り入れて、シングルス・ダブルスとも、トーナメントで行いました。

1年生9人、2年生4人、3年生7人、合計20人が応募してくれましたが、当日参加者は15人でしたが、白熱した戦いも見ることができ、盛況に終わることができました。ご参加ありがとうございました。

シングルスの部

1位 3年 古瀬 泰斗
2位 3年 高橋 昂
3位 1年 三原 柊城

ダブルスの部

1位 3年 高橋 昂
3年 古瀬 泰斗
2位 3年 山口 力
1年 中川 大夢
3位 3年 越後 尚也
3年 矢口 瑞基

・久しぶりにかるたをして、小さかったころのように楽しくできて良かった。

・初めて、かるた大会に参加して、ダブルスは二人で協力し、楽しく出来たし、また、参加したいと思いました。



芥川賞 受賞作品を読んでみよう！

「夜と霧の隅で」 北杜夫著 第43回受賞

精神科医達の、極限状況における人間の不安、矛盾を追求した作品。

「限りなく透明に近いブルー」 村上龍著 第75回受賞

詩的情感と清潔な感受性。24歳の^{きらめ}煌く才質が創る衝撃の青春文学。

「小さな貴婦人」 吉行理恵著 第85回受賞

優雅で奇妙な連作小説集。

「佐川君からの手紙」 唐十郎著 第88回受賞

奇怪な出来事に翻弄されつつ、劇的想像力が

“パリ人肉事件”の謎の実相に迫る。

「尋ね人の時間」 新井満著 第99回受賞

“失われたもの”を求めて尋ねさすらう、哀しくも滑稽な現代人の姿。

都市生活者の乾いた関係を新しい感性で捉えた作品。

「妊娠カレンダー」 小川洋子著 第104回受賞

妊娠をきっかけとした心理と生理のゆらぎを描いた作品。

「豚の報い」 又吉栄喜著 第114回受賞

生命力あふれ、ひたむきでユーモラスな三人の女性の、生き方！

「蛇を踏む」 川上弘美著 第115回受賞

女は藪で蛇を踏んだ。蛇は女になり食事を作って待つ。

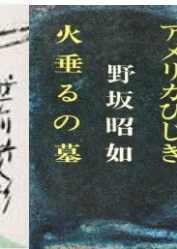
母性の眠りに魅かれつつも抵抗する女性の自立と孤独を描く。

「海峡の光」 辻仁成著 第116回受賞

海峡に揺らめく人生の暗流。渡りきるのは私か？あいつか？

「家族シネマ」 柳美里著 第116回受賞

家族を演出することが家族なのか。現代の孤独な人々の^{けんそつ}喧騒を描ききる問題作。



直木賞 受賞作品を読んでみよう！

「強力伝」 新田次郎著 第34回受賞

白馬岳の山頂まで50貫、約187kgもの大岩を背負い上げた男の物語。

「雁の寺」 水上勉著 第45回受賞

怨念と濃密な私小説的リアリティなミステリー連作。

「アメリカひじき・火垂るの墓」 野坂昭如著 第58回受賞

敗戦直後の占領軍に対するのコンプレックスを呼び覚まされる物語。

兄妹の愛情と戦後社会との狭間で、生き抜こうとする姿を描いた物語。

「手鎖心中」 井上ひさし著 第67回受賞

材木問屋の若旦那は、絵草紙の人気作家を志すあまり、他人を笑わせ、

他人に笑われ、馬鹿馬鹿しい騒ぎを起こすさまを描いた作品。

「暗殺の年輪」 藤沢周平著 第69回受賞

武家の非情な掟の世界を端正な文体で描いた作品。

「魚河岸ものがたり」 森田誠吾著 第94回受賞

まちの人々との人間模様を情感こまやかに描き出した長編小説。

「遠い海から来たCOO」 影山民夫著 第99回受賞

奇跡の恐竜クーと少年洋助との感動の冒険ファンタジー。

「青春デンデケデケデケ」 芦原すなお著 第105回受賞

時代は1960年代、少し古いけど、王道中の王道青春小説。

「テロリストのパラソル」 藤原伊織著 第114回受賞

多数の死者が出た。犠牲者のなかに「私」の、ただひとりの女性、

ただひとりの友人がいた……。ハードボイルド最高傑作！

「鉄道員（ぽっぽや）」 浅田次郎著 第117回受賞

北海道の終着駅の駅長さんの人生に起こった、小さな奇跡の物語。

